

---

Snow.

雪.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Snow .

### 【Nコード】

N08870

### 【作者名】

零 .

### 【あらすじ】

主人公

しいな みゆう  
椎名美優

主人公の彼氏的な野郎（

あいかわ ゆきや  
藍川雪夜

まあ、見てください（・ ・ ・）  
あらすじじゃないぜっ（

## 雪の降る日。(前書き)

国語評価「3」の野郎がかきました^^  
生暖かい目で見てやってください。

## 雪の降る日。

君は まるで雪のようだった。

触れたら解けて、消えてしまいそう。

そんな君が愛おしくて仕方ない。

「美優ーっ」

後ろから名前呼ばれる。

そして、きつく抱きしめられる。

．．．力強っ．．．っ！

「痛いつてば、雪夜っ！」

そついうと彼はああ、ごめんごめんと軽く笑って

私から離れる。

雪夜は私の、彼氏。

あいかわゆぎや  
藍川雪夜。

三ヶ月前のことだった。

\*

「俺さ、ひとめぼれしちゃって・・・そのっ

俺と、付き合ってくれませんか？」

今にも泣き出しそうな瞳が私を本気で

好きだということを物語っている。

でも、見た目的めっちゃ軽そうだな・・・。

「・・・浮気しない？」

付き合う気なんてさらさらない、けど

とりあえず聞いてみよう。

「勿論。今までの女とは全部縁切った。」

「・・・っ!」

真剣な目、で。

私をまっすぐ見つめて。

これじゃ・・・

断るに断れないじゃないかっ・・・!

\*

まあ、そんなこんなで私は雪夜と付き合い始めた。

それから、雪夜は所かまわず

べたべたべたべたべたべた．．．．

私、何でこんな奴と付き合っただろ．．。

\*

「そいえばさ、もうすぐ美優の誕生日じゃんっ

何欲しい？ 俺、何でもあげるよ？

家だろうが車だろうがっ

あ、むしろ俺でm「黙れ。」

こいつ、本気で馬鹿だな。

\*

「今日、寒いね。」

マフラーとか手袋とかして

ちゃんと防寒対策してるのにめちゃくちゃ寒い。

「雪、降りそうじゃね？」

なんか楽しみだなーっ」

何が楽しみなんだよ。

雪降ったら寒いだけだろ。

「なあ、俺寒いからさあそこの喫茶店入ろうぜ？」

自己中めが。

何だよ、こいつ。

\*

「あ、もう八時か。

帰らなきゃ。」

「おー、そうだな。

送るよ？」

「大丈夫。一人で帰れる。

つか、私の家もう見えてるじゃん？

だから 大丈夫だったの。」

あたりを見回すととても暗い。

しかも めちゃくちゃ寒いし。

早く帰りたい。

「ん、わかった。

じゃーな・・・っ」

そういつて、彼は私の唇に優しく彼の唇を重ね合わせた。

「っっ!?!?!?」

「寒いからこれ着ろ。

んじゃ、明日学校でな　。」

優しく微笑み人ごみへと消えていく彼。

それを優しく微笑みぼーっと眺めていた。

それだけ、だった。

痛い、痛い、痛い。

体中のあちこちが痛い。



鈍い音をたて、私は遠くへと

吹き飛ばされる。

車に轢かれたらしい。

多分。

痛い、痛い、痛い、よ。

\*

気がついて目を開けると

見えてくるのは白の壁・・・天井？

「ん・・・っ」

近くで声が聞こえる。

眠たそうな声・・・いや寝てるのか？

「み・・・ゆ・・・うつ・・・」

・・・雪夜か。

起き上がろうとした刹那

体のあちこちに鋭い痛みが私を襲う。

「痛っ　．．」

痛い、痛い、痛い。

痛くて涙をこぼしそうになった時

寝ていた雪夜がようやく目を覚まし

「美優ッ！　大丈夫かッ??」

．．私より泣き出しそうな瞳で

私を覗き込む。

いや、すでに泣いてる。

「．．何で泣いてんの．．。」

優しく微笑み雪夜をみつめると彼は安心したようだった。

「良かった．．。生きてて．．。」

その一言が嬉しくて、

どこか恥ずかしくて。

ていうか、勝手に殺すな。

「．．ごめんっ。ごめんなっ．．。」

涙をぼろぼろと流し

泣き出す彼。

っていうか

「何が？」

意味分からん。

何がごめんなんだ、こいつ。

「俺が．．．あんときちゃんと送ってけば

美優が事故らなくてよかったのに．．．！」

おお、

こいつはどんだけ馬鹿なんだ。

お前のせいじゃないだろ、どう考えても。

「お前、馬鹿か。」

なんでお前のせいみたいになってんの。」

「だって．．．俺が．．．」

「うるさい。」

動かない体をゆつくりと起きあげて

彼の唇に優しく私の唇を重ねる。

突然のこと、だったの

雪夜はびっくりしていた。

ていうか、固まっていた。

「え、 え、 えええええええええええええええええつ  
?!」

「いづい、こゝ病院」

「え、だって、みゆうがおれにききき、ききき」うざい。」

・  
・  
・何なんだよこいつ。

事故にあう前に私にキスしてきたくせに。

そんなに私からするのがおかしいのか？

- ・
- ・
- ・

もしかして

「嫌だった？」

「んなわけねえだろっ！」

即答ですか。

「だって、いきなりだったからめちゃうびっくりしたんだよ・・。」

それに、美優さ、俺話しかけても冷めてる感じだし。

だから、俺のこと嫌いなのかと・・。」

「したくなっただもん。

冷めてる・・のかな？

だって雪夜うざ・・しつこいし。

それに、嫌いだったら雪夜と付き合ってないよ？」

顔を真っ赤にさせて手で顔をかくす雪夜。

可愛いな。

「雪夜、好きだよ。」

「っ！俺も・・っ！」

\*

君と出会えてよかった。

出会わなければこんな嬉しい思いしなかっただろう。

モノクロの世界に居た私を

連れ出してくれてありがとう雪夜。

これからもずっと一緒に居ようね。  
。

## 雪の降る日。(後書き)

感想などあればお願いします^^

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0887o/>

---

Snow.

2010年10月12日02時48分発行